

二〇一四年 一月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

他を生かし続ける無量寿の「いのち」

むじりみょうじゆ

とういよしお
東井義雄

お正月を迎えて、「寿」という漢字を見かけた人はいませんか。おせち料理のお箸の袋、年賀状はがきの片隅、お年玉袋など……。

祝いを表すその漢字にはもう一つ、「いのち」という意味があります。今月の言葉では、無量寿すなわち「はかることができないいのち」という意味として用いられます。

無量寿とは、単に自分自身の限定的ないのちを指しているのではなく、無限のつながりをもつたいのちを指しているのです。

例えば、この私は一人で生まれてきたわけではありません。父母の存在なくしてこの私はありませんし、父母もその父母からのちのバトンを受け取ったわけです。さかのぼれば無限のいのちのつながりがあります。

そう考えれば、いのちとは私だけのいのちとはいえません。無限のいのちのつながりの中に、自分のいのちもあるのです。換言すれば、「はかる」ことができないいのち「が私を含め、他を生かし続けている。今月の言葉はそのようなことを言っているのではないでしょうが。

今月の聖語

たはた

田畠は雑草によって荒れ ひととんよくは貪欲によってすさむ

ほつくきよつ

『法句経』

十年ひと昔とよく言われます。十年ほど前には「電話を携帯できる」だけでも十分魅力的だった携帯電話は今や、ますます高性能になり、カメラ、テレビ、インターネット、オーディオプレーヤーなども携帯できるようになりました。めざましい科学技術の発展に驚くばかりですが、これは、時と場所を選ばずに自分の欲求を満たせるようにしたいという人間の欲望がなせるわざといえるかもしれません。大人も子供もついつい時間を忘れて楽しい機能に心を奪われてしまします。勉強、家族との会話、将来のことを考える大切な時間を一時の享楽のために浪費しかねません。

さて、田畑はほっておくと、雑草は次々と生い茂り、土壌は荒れ、作物は実りません。同様に、我々の心もほっておくと、「あれもしたい、これもしたい、もっとしたい」というむさぼりの心が次々と起り、コントロールできない「すさんだ」状態になりかねません。

携帯電話に夢中になっているそのあなた、こんな釈尊の忠告も携帯してくださいね。